



牟田 泰三
(広島大学元学長、物理学者)

孫娘(アヤ)が2歳10カ月のある日のこと、二人で散歩していて、私がちよつと疲れただけでベンチに「ひと休み」と言いつて腰掛けてみると、アヤが「ジイジ、もう帰ろうか」と言っています。この子はジイジ

こころのめばえ①

他者の心を推測「心の理論」を孫娘に見る

の体調を推察して気を使っているのだろうかと思つてしまいます。

アヤのパパに言わせると「なあに、ジイジがお散歩の役に立たないと思つただけさ」と笑っています。そうかも知れません。確かに、幼児

を読んでみようという気になつて、少し独習を始めました。

心理学には発達心理学という分野があつて、人の心の発達に関する研究がなされています。その中でも「心の理論」という分野が最近注

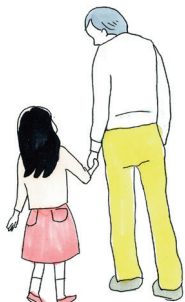
ついでの考え、すなわち「心の理論」を持つていて、これをもとにして他者の心について推測しようとする、と考えられます。

先ほどのお散歩の一件をもつて、アヤにすでに心の理論が備わっていると判断す

は自己中心的だと普通は考えるものです。

しかし、幼児の心の中はそれほど単純ではないのではないかと考えられます。心理学の学問分野に幼児心理学のようなものがあるはずだから、そのような分野の本

目されています。人はそれぞれ頭の中に「心」というものに



るのは早計かと思われませんが、心の理論という観点からアヤの行動を観察していると、いくつもの事例に気が始めました。

「心の理論」という用語は、もともと、米国のプレマックとウッドラフという二

人の研究者が、チンパンジーの行動を追跡研究したときに用いたことから広まったものです。彼らは、チンパンジーが、その仲間が感じたり考えたりしていることを推察しているかのような行動を取ることを発見し、その論文の中で「心の理論」という機能が働いているからではないかと1978年に指摘したのです。他者への思いやりという行動は、その人が心の理論を持つている証拠であるといえるでしょう。

 広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)